

詩画集



木の葉の夢



やまのうえの
山上

むらひと
村人

目次

内在神	4
お知らせ会	6
だまし絵	8
今日の出来事	10
カルガモ行進曲	12
余命一年	14
宝もの	16
神様のお住い	18
小春日和	20
幸せ数え歌	22
分からないことばかり	24
真夏の夜の夢	26
羽化伝説	28
お経	30
帰る	32

3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	8	6	4
2	0	8	6	4	2	0	8	6	4	2	0		



天の川

路傍の花一族
 不思議だらけ
 「コンタクト」
 鳩と満月
 おまじない
 分けると増えるもの
 彼岸花の季節
 自分
 見えない 気づかない
 もう一人の自分
 松虫姫鈴虫姫物語
 世界一小さな表彰状（感謝状）
 独り言葉
 ユリの木賛歌
 自薦俳句
 追補

6 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 3 3 3
 0 8 6 4 2 0 8 6 4 2 0 8 6 4



兔と亀 同時ゴール T.M

内在神

子供の頃住んでいた家の

小さな裏庭に祠ほこりがあつた

石の狐が二匹番をしていた

半月の夜小さな祠に入る人影をみた

(油揚げを盗りに来た鼠だったかも)

鼠には鼠の嫁入り

雀には雀の嫁入り

小卒の父は職人になり少卒の妻を娶った

祠を安置すると

祠の神は油揚げのお礼に

四人の子を与えた



岩手の鼻曲がり土面

やがて供物が絶えた後 祠の神は父に死病を与えた
享年四二歳 病死の父は靖国神社には葬られなかった
三七歳の妻と四人の子を残し
辞世の歌を書けぬ父は死の床で呟いた「有り難う」
祖母から聞いた話である

神は人の心の中にあるという
心の中にあるというのは無いのと似ている
祠は消え父も消え母も消えた
全ては無から生まれている
満開の花は何処に消えたのだろう
桜の木の下に立ち止まり一面の青葉を見上げる
雀がいる 雀よ 今日もいいお天気だね



お知らせ会

以前「お知らせ会」というのをつくりました

亡くなった後 あの世界があつたら

夢とか虫の知らせで

「有ったよ」とか

「無かったよ」とか知らせるのです

入会規則は六十歳以上の方で会費は要りません

二つ約束事があります

暗い場所では出ないこと

後ろから出ないこと

昨日入会者から訃報の葉書きを貰いました

早速その夜「無かったよ」という夢の知らせがありました



花の星座

生前科学者だった方です

「退屈なので毎日天の川で釣りをしている」

「やっぱりなあ」



だまし絵

視点の相違で別の画像に見える絵があります

同じ視点で老婆に見え少女に見える絵

同じ世界に住んでいるのに見解がまるで違う方がいます

同じ日本語なのに会話が出来ない人達

様々な生き物たちは自分に疑問をもったことがあるだろうか

自分は何で自分なのか

水辺に棲み何故か横歩きする蟹

ヘリコプターを凌ぐメカニズムを持つ羽虫

カラスはカラスである事に疑問を感じた事があるだろうか

捕らえた鹿を今喰おうとしている虎は

怯える獲物をみて思う「うまそう」



いま喰われようとしている鹿は思う

「私は何で鹿に生まれたのだろう…」

悪事をする人達の大半は悪事とは思っていない

「おぬしも悪よのう」

「へ…お代官様ほどでは」

悪代官も越後屋も己の悪を知っているので善人に近い

悪事は被害者には苦悶であるが加害者には楽しいゲームだ

国会は国民の代表であるが

賢者の代表ではない

パフォーマンスの舞台だ

個人間国際間人の争いの歴史は続く

海彦山彦の時代から



ラス・マノスの洞窟壁画

今日の出来事

今朝庭の隅の咲きたての花に声を感じた

花の命は短いというが

花の代表のバラも百合もカーネーションも

切り花にして一〜二週間咲いている

本当に短いのは朝の一時だけ咲く朝顔です

私に話かけたのは花期の短いカボチャの花です

実を結ぶために

短い一時を咲く植物があります

ジャガイモやさつま芋・キュウリやカボチャです

散歩道で垣根越しに挨拶を交わす娘さんがいます

老いた母の為に化粧もせず娘盛りを過ごしています



キュウリ



カボチャ

庭隅みで咲くカボチャの花で思い出したのはその娘さんです

隣町のスーパーの安売り広告をみて買い物に出かけた主婦がいた

帰路バイクの一時停止違反で五千円のキップを切られた

彼女の一日分の日当である

ぼんやりして洗濯機を回していた

何もいいことがない日は古い音楽を聴こう

「ミネトンカの湖畔にて」は

サン部族の若者とムーン部族の娘の悲恋の歌である

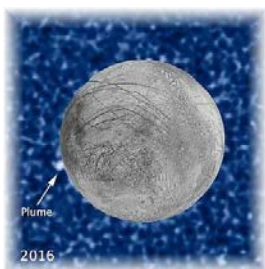
今日は一日曇り この世にはいいことがない不成就日（ふじようじゅび）だ

地上は諦め宇宙には何かいいことは無いかと天文サイトを覗く

「オオツ」

土星の衛星エンケラドスで噴煙が上がっている

エンケラドスの海にイルカがいて人魚姫がいるといいな



エンケラドス



ジャガイモ

カルガモ行進曲

カルガモの歩く姿は可愛いな

今日は朝から五月晴れ

よちよち歩く親のあと九羽の雛が続いてる

卵は十ヶあつた筈

足りない一羽はどうしたの

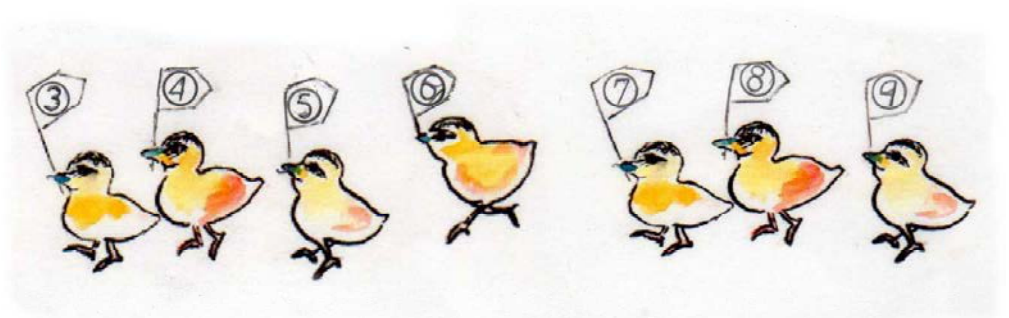
卵の殻が破れません

卵の中で死にました

今日も朝から良い天気

カルガモの子は可愛いな

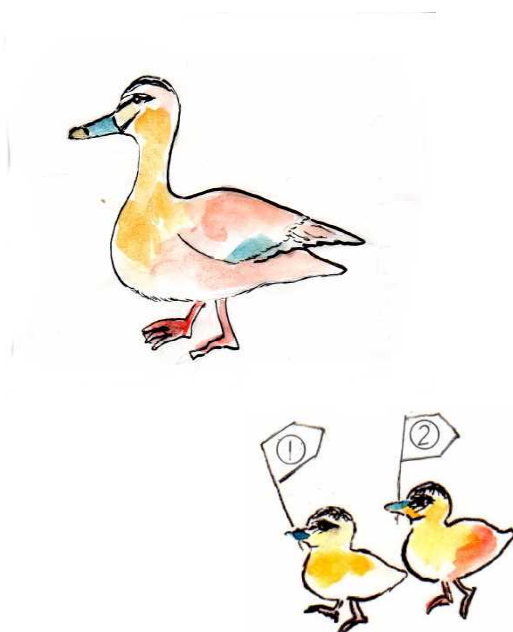
一、二、三、四、五羽いるが



今日は四羽が消えてるぞ
鳶が空を飛んでる
地にはイタチや猫がいる
空にはカラスや鷹もいる
明日は誰かが居なくなる
ここは危ない引越しだ
親子三人急ぎ足
人は人を襲うけど
カルガモの子は殺さない
卵が十ケもあったわけ
子供のうちに大半が
死ぬか喰われてしまうため
カルガモの子は可愛いな

子鴨の役割

- ① 鴨鍋になる
- ② 隼に喰われる
- ③ 鳶に喰われる
- ④ 隼に喰われる
- ⑤ 鷹に喰われる
- ⑥ 鼬に喰われる
- ⑦ 猫に喰われる
- ⑧ 烏に喰われる
- ⑨ ボーガンで撃たれる
- ⑩ 卵の中で死ぬ



T・M

余命一年

もし地球の余命があと一年と決まったら

各地で暴動が起こるだろうか

ある国は軍隊を送り他国を侵略するだろうか

一方限られた時間を正しく過ごし

身近な世界を楽しくしよう という人達もいる

一年先のオリンピックを数えるように

地球のカウントダウンが始まる

気象庁が発表する

皆様明日から地球最期の梅雨入りです

色鮮やかな紫陽花を見ておきましょう

八月には各地で最期の打ち上げ花火



預金は全部解約して人に喜ばれることをしよう
逢つておきたい人がいる
親しい者に見せて上げたい景色がある
消滅するまえに見ておきたいオーロラ
サークルストーン ルルドの泉 砂漠の星空
美しいものは自然だけではない
人の作つたものでも感動するドラマ 音楽がある
悪事に走る者は真面目なお巡りさんに逮捕してもらい
残りの日を牢で過ごして貰う
空気が綺麗になり世界にかつてない平和が訪れる
あと一ヶ月 昼間から
地球を飲み込む巨大彗星が見えてくる
各地に巨大UFOが現れる



最期の天使

宝もの

国の宝は国宝

金額に換算するとみな億がつく

宝というのは桁はずれて勝れているもの

希少価値がある ものである

誰もが 何時でも 見られるもので感嘆するものがある

雨後の一時の虹である

夕焼けである

垣根に咲く朝顔である

美術館や博物館では見られない。みな無料である

宝物を査定する人気番組がある

それぞれの専門家が金額で評価する



国宝第一号 弥勒菩薩

その結果光り出す石があり石に変わる宝石がある
一人の人にだけ価値があるものがある

それはどん高価な国宝に勝る

… 銀（しろがね）も金（くがね）も玉も何せむに

勝れる宝子に及かめやも…
たから

山上憶良の宝は妻や子供であつた
やまのうえのおくら

その憶良の子「古日」は幼くして死んだ
ふるひ

憶良は号泣した

その声は千三百年の歳月を超えて今も聞こえる

この世で本当の宝ものは自分の命より尊いものである

「フェアリーの贈り物」である ※

天にあるものである

私の宝は今も耳に残る母の言葉である



百円では買えないもの達

神様のお住い

神様が見えないのはお住まいが天にあるからだ と

子供の頃母から聞いた

少年になると厚紙で望遠鏡をつくり夜空を見た

丸い平らな月が近づくと山の影があり興奮した

クレーターには誰かが立ち去った跡があつた

その後ハッブル望遠鏡の遠ざかる銀河群をみて失望した

深い海の底には地獄の釜が沸き立ち

暗黒の海底には悪夢が住んでいた

古戦場には今も銅鑼が鳴り

大地震や津波の跡には瓦礫と死骸が散乱していた

その後亡くなつた方の消息を知りたくて



花束を持って墓地を訪れた
誰もが沈黙していた
改めて聖書をみて私は祈った
貴方はいないのですか？
闇の中から魑魅魍魎が現れたので
チャンネルを切った
ごめんね マルセニーノ ※
優しい声がした
私は寺院の壁画や
宇宙の果てとか遠くにはいないけど
眼を閉じてごらん
何時でもあなたのそばにいるんだよ



映画「汚れなき悪戯」の1シーン

小春日和

今日は暑くも寒くもない　よいお天気だ

こんな日は家でTVを見ているのは勿体ない

こんな日は学生達よ　屋根の下で勉強しているのは勿体ない

こんな日はお巡りさん

そんな所に隠れていないで出ておいでよ

こんな日は亡くなった人よ

石の下に寝ているのは勿体ない

あの世は素敵だと思っけど

この世にもこんな素敵な日がある

亡くなった人はみな怖くない

父も母も友もみな懐かしい



万葉集の人達もみな出ておいで

美しいものや楽しいもの達が出逢うと時が止まる

初秋の午後の 春のようなこの一時

今宵は満月の気配

誰も来なければ一人で

時空を超えた月見の宴を開こう

私^{こんじょう}が会いたい人は今生で出会った人だけではない

私の好きな物語を書いた人^{やまのうえのおくら} その物語の中にいた人^{たちはなあけみ}

山上憶良よ 橘曙覧よ

千年前ここに飛んでいた蝶よ トンボよ

昨年死んだ小鳥よ 目を覚まして飛んでおいで

今宵は夜が更けるまで月と杯を交そう

鼓^{つづみ}や笛の音を聞きながら



幸せ数え歌

嬉しくて眠れない幾つかの夜があつた

子供の日 明日は遠足

明日は来るか来ないか初デートの日

様々な不安や失意で眠れない多くの夜があつた

年を重ねると「ワオッ」と叫んで風雨の夜でも

駆け出したいようなことは無いが

日々誰かに告げたい喜びや驚きがある

「生きていてよかったな」と思うことがある

今朝は何処も痛くない

階段を降りて立ち止まる

今朝咲いた朝顔が私に声をかけた



まだかなあ 菜生

私　夕方にはいませんが今宵は満月ですよ

此の世界には美しい音楽がある

一枚の絵や風景に立ち止まる

書物やDVDのドラマの人間達に感動する

そこに自分はいないのだが自分を忘れ

この世は何のためにあるのか忘れる

ニュートンは林檎をみて万有引力を発見したが

野の花に立ち止まり祖父を見上げて叫んだ幼児がいる

「此の世には色がある！」

「生まれ変わりの村」で忘却のスープを飲まなかった子だ ※

友人から贈られた酒を飲みながら思う

一枚の葉書を見て思う

「ボクはオレって幸せだなあ…」



絵　岡本　肇

分からないことばかり

微分積分の先 分子生物学 分かりません

クオークから先の超弦理論 ほぼ分かりません

日々苦痛に生きる方の安楽死を助けた方を罰する方分かりません

この世界銀河だけで二兆！もあり

一グラムの土に百万種数十億！の細菌の世界これまた途方にくれます

分からないことばかりなのは頭が悪いせいです

難しいことはエリートの方にお任せするのが一番です

国会はそうした国の代表です

何故か人相が良くない方がいます

そうなるまでのご苦勞を想像します

私にも分かるものがあります



日々散歩に同行し私を見上げる犬の気持分かります

足音でエサに集まる金魚、泥鰌、メダカの気持分かります

私を見る幼児の瞳分かります

私を感激させる方がいます

私の感じるものを憾じ実行するものは弟子ではなく友である ※

それを聞いた何人かの弟子は実行しました

その結果無惨な死に方をしました

私ができるのは感じるだけで友になるのは遠慮します

この世界は分からないことばかりです

月は大きな湖にも小さな水たまりにも一ヶ映ります

雨後の松の葉末に無数の露が光っていました

その一つ々にも月や星空が映っているはずですが

ここに自分が一ヶいるのは勿体ないことです



真夏の夜の夢

野を越え 山を越え

父を越え 母を越え 妻を越え 弟を越え

真夏 真昼 蝉の声で眼を覚ますと

七歳から何もしないで八三歳！

さきほどまで傍で笑っていた人は故人だった

まだ爆撃機来襲のサイレンの余韻が残っている

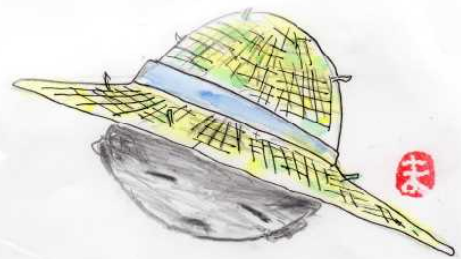
我が家の墓碑をみて愕然

こんなにも長く世を彷徨^{さまよ}っていた者はいない

勿体なくもお釈迦様を超えて生きています（お釈迦様は食あたりで八十歳で死亡）

短い生涯でも偉大なる足跡を残している人達がいいます

二十歳で火刑にされた聖女ジャンヌ・ダルク ※



一九歳で決闘で死んだ天才数学者ガロア

「乙女の祈り」を作曲したのはポーランドのテクラ・バダジエフスカ十八歳です。
人間だけではない。天晴れなマグロがいる。(マグロの推定寿命は10〜15年)

H19・1月5日 豊洲市場 278kgのマグロは 3億3360円で落札

本を読んでいると一ミリほどの虫が頁を横切った

思わず潰してティッシュペーパーで拭き取った

即死した虫には手足があった

有史以来大量殺戮をした暴君や英雄達がいる

この世で多くの人を苦しめ命を奪って無事この世を去るものたちの不思議

小さな虫を殺しても誰も私を咎めない不思議

忘却の彼方から蝉が鳴き出す

哀しい哉 懐かしい哉 愛おしい哉

カナ カナ カナ …



羽化伝説

意識が薄れる 呼吸止まり 心臓が止まる

暫くして意識が蘇る

遺体を見ている健康な自分がいる

周囲の風景は同じなので暫く死んだことが分からない

自分が死んだことが分かるのは

語りかけても人が返事をしないこと

生きている人からは自分が見えないことです

途方にくれていると

声をかけてくる懐かしい人が現れてくる

死んだ筈の 父母や 子供達 友人達だ

「迎えに 来たよ」



「人は死なないうて 本当なんだね」

「あの世って あるんだね」

「そうだよ」

毛虫が美しい蝶に生まれ変わるように

病人は健康体になり

老人は若者になっている

亡くなった人は楽しくなつて暫く此の世界に止まり

悲しんでいるその人達のそばにいるが

やがて話しかけても聞こず答えない人達から去つて行く

あの世は異次元界 遠くて近い

失つたものは みなそこにある

懐かしい人 逢いたい人は みな そにいる

誰もがそこで再会する



お経

同じ日本語でほぼ通じないのはお経です

…二同じ…ニ非ず…ノ如しの切れ端で日本語と分かります ※

お経は本来参加者に対してのメッセージと聞きました

宗派によりお経の種類が違います

般若心経は代表的なお経と言われています

色即是空 諸行は無常です ポクポク

形あるものは全て 変化し無くなる 悲しい哉 チーン

しかし 空即是色 ! ジャーン

空は無ではなく有象無象は何と空から生じるのです

有り難い般若心経には様々な解説書があります

様々ということは人により解釈が違ふということです



円空

この世界は日本語でも通じないお話ばかりです

分からなくていいのです

ここはその違いを追求する場ではありません

三〇四十分(十曲分の音楽へ病院の待ち時間)という長くて短い読経は

「半眼を閉じて雑念を捨て去り、心が透明な状態になる」

日常生活では作れない無念無想のセレモニーの時間です

亡くなった人は既に棺かみの中にはいない

「遺体を覗かれるのは恥ずかしい」と声がしました

声の主は生前の健康体で葬儀場に来ています

亡くなった人みな五体満足で蘇よみがえります

参加した一人一人に声をかけるが誰も気づかない

私が手を上げると笑いながら故人が応えた



秩父 四番札所

帰る

何となく拾ってきたドングリの実

机の隅において四、五日眺めていた

二、三日話かけたが返事をしない

四日め初めて口を開いた

「帰りたい」

翌日私はドングりを元の道端の土に帰した

それから時折「帰りたい」という声を聞くようになった

ある時は壁の一輪挿しが呟く

「もう捨てて下さい。明日は土に帰りたいんです」

何時迄も根無しで生きているのは辛いです

私の手をすり抜けたコーヒークップが言った



クヌギ



「帰ります」

床で割れる音の中に笑い声があった

茶釜に化けた狸は火に掛けられたとき慌てて逃げ出した
何時までも同じ形でいるのは疲れます

名人が描いた雀は朝になると近くの竹林に飛び去り

夕方まで帰ってこない

本を閉じてふと思う

根が地球と話している道端の花を見て思う

私は何処に帰ればいいんだろう

生き物はみな誰かが土から造ったのだ

夜半の帰宅 誰かが見ている気がして振り向いた

少し欠けた月が私を見ていた

「まだいるの」



路傍の花一族

路傍の花は誰の為に咲くのか

路傍に季節毎に咲く花がある

真冬でも日当たりに咲いている幼稚園生のオオイヌのフグリ

黄色い蝶が大勢止まっているような月見草

日本画には薔薇よりも露草です

貧乏草の汚名にめげず凜として咲くヒメジオン

お彼岸になると連絡を取り合って一斉に咲く彼岸花

蘭やバラは豪華な部屋を飾るが

野草は自然の中で輝きます

路傍の花は誰にも知られず亡くなった人のために咲きます

誰もが忘れている人の誕生日のお祝いに咲きます



何処かで犬や猫が一匹死ぬと野の花が一つ咲きます

何処かで虫が一匹死ぬと野の花が一つ咲きます

何処かで悲しいことが一つあると寄り添って野の花が咲き

何処かで嫌なことがあると花が萎れます

何処かで楽しいことが一つあると花は次々と開きます

「床下の小人たち」のアリエッティは童話だが

レンズでしか見えないミリサイズの花のグループがある

この世界は人間だけではない

小さな花には小さな虫たちが集まります

赤い花は喜びと祝福

青い花は悲しみと祈り

日の出まえ咲く花があり日が暮れてから咲く花もあります



2, 3ミリの花



不思議だらけ

家の隅の小さな空間に網を張っている蜘蛛がいます

誰かの援助もなく既に自活しているのです

お酒が好きそうにみえてまるで飲まない人がいます

同じ高学歴の方同士まるで意見が違う人がいます

思い込むと見えなくなってしまう人がいます

そちの水は苦イーがいぞ♪ と心配して知らせているのに

自分から不幸を選んでホタルになつてしまう人がいます

子供のうちは見えて大人になると見えなくなる世界があります

十歳で分かったこと四十歳で分かったこと

八十歳で分からなくなつたことがあります

些細な拘りに生き甲斐を感じているお役人がいます



沖縄の海底遺跡

悪いと思つて悪い事をしている人がいます 少し

悪いとも思わないで悪いことをしてる人がいます 大勢

悪事数々最後に勲章を授与され世を去る方もいます

多くの歴史上の偉人、天才がいます

七〇億人も住む地球の何処にもエリートがいます

何の取り柄もないのに意味不明で生きているものがいます

大きな魚のイサになるイワシの大群がいます

蟻もそうです 見ていると時々立ち止まります

考えても分からないのでまた歩き出します

何の特色もないのに私がいるのが特に不思議です

小さな羽虫が飛んできたので両手でパンと捕らえました

「何か分かったか」小さな声がしました

掌を開けると見事な羽虫の死骸がありました



ハト 人間に豆を与える

「コンタクト」 ※

近くに居ても話しが通じない人がいます

遠くに居るのに逢いたい人がいます

エリーはアマチュア無線の父に育てられた

操作を父に教えられ 遠くに住む善意に呼びかけた

「CQ CQ こちら W9 GFO 誰かいませんか 応答願います」

一人でいる時はエリーを産んでもまもなく死んだ母に呼びかけた

「お母さん どこに居るの」

エリーは長じて天文学者になり

アレシボ天文台のリーダーになり全天に電波望遠鏡を向けた

「私達は何者なのか。なぜ私達はここにいるのか」

この銀河系だけでも地球に似た惑星は110億ヶあるといわれています



「地球人だけではこの広いスペース(宇宙空間)が勿体ない」

エリーは地球外の知的生命体からの応答を日夜待った

やがて維持費だけの電波天文台からスタッフ全員の解雇が宣告された
その直後エリーはある微弱な信号を受け驚喜した

それは二十六光年先のベガ星の惑星からだった

ベガ星からのメッセージが解読された

それは一人乗りの時空を超えるカプセルの図面だった

海岸に設置された発射台は轟音と光に包まれた

数秒後カプセルは元の位置にあった

発射は失敗かに見えたがカプセルの時計は十八時間経過していた

太陽が四つ輝くベガの惑星で

エリーは信じられないものを見た

この世にはない美しいもの、懐かしいものに出逢ったのだ



鳩と満月

梯子をかけて昇ってきた人間と

巣ごもりの鳩と眼が合い

お互いにびつくりした

人間は茅の木の下枝が伸びたので伐りにきたのである

「まあ こんな玄関先に！」

「まあ こんな近くに人間の顔が！」

鳩が飛び立たなかつたのは卵を抱いていたからです

鳩の天敵は猫や鳥である

それで鳩もツバメ同様巣作りを人家の近くを選んだのだ
けなげな鳩と眼を合わせた私は

ゆりの木の右下 茅の木 ←



「がんばれよ」と梯子を降りてきた

途中で「名前を聞くの忘れた」と気づいたが

思えば自然の生き物には名前が無い

個々の生き物には名が無いということは

自分が大勢居るということだ

幸いウチの玄関先に巣作りをした鳩は無事だったが

同じ日に猫と出逢い命を無くした鳩がいた

駅舎の軒に巣作りし駆除業者に冷酷に巣を撤去され

その夜は首を羽で隠し眠れない夜を過ごす鳩もいる

昔々人間も鳩だったかもしれない と思った

昼間から半月が出ていた

これから夜毎に月が丸くなる

望月の夜は雛の巣立ちを祈り月と一献を交わそう



おまじない

思うだけではダメです

実行しなければ というのが常識です

気持ちが一番、といつても

慰し袋に綺麗な木の葉は入れられません

見えない指輪も上げられません ※1

お金もないし何もできない人がいます

そんな情けなさそうに俯いている人達を眺めて

昔々インドの神様がいました

思うだけではだめだが

その思いを顕在化する魔法の言葉と。パフォーマンスを教えよう

山や樹を移動させるのは難しい上級編だけど



誰でもできる 初級編があるよ

痛がつている子供をみたら 言つてごらん

「痛い痛い飛んでいけ」

それからこれはおにぎりを握るときのおまじないだ

「おにぎり おにぎり 美味しくなアレ」

相手に幸運をもたらせるおまじない

それが科学の無い二千五百年まえの「マントラ」です

※2

現在の量子論では電子は人の意識に応じます

超ミクロの世界のことだけど…

犬の頭を撫でて呟くことがあります

寝る前に呟くことがあります

○○さんよ ○○さん達よ きつといいことあるよ

神様（仏様、どちらでもいいです）のご加護がありますように



分けると増えるもの

分けても減らないものがあります

美味しいものは近くににいる方に半分上げます

「美味しいでしょう」

「美味しいね」

人が喜ぶ顔をみると自分も嬉しくなります

人間には悩んでいるより笑顔の方が似合います

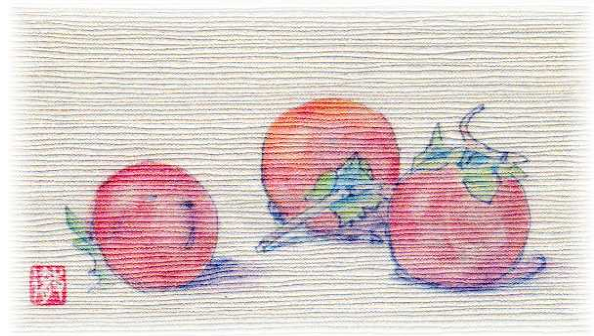
ご馳走は分ける都度減るが喜びは倍増する

食べ物に分かち合うには限度があるが

大勢で分けても減らないものがあります

「虹が出ているよ 見ないとすぐ消えてしまうよ」

声を掛けられたらやりかけの手をとめて空をみよう



絵手紙 東中川 徹

「今夜は満月だよ」

これは虹と違つて一晩中見られますが

見頃は日没のあとです

地平線に顔を出した短い童画の時です

まもなく中天に上がると月は小さくなつて無口になります

趣味は個人的なもの、人様々で考えた末話しかけます

「これ聞いて いい音楽でしょう？」

「この絵 いいでしょう？」

「いい物語りがある」

時々「いいね」とニコリする方に遭遇します

感動は自分だけでないことを知り嬉しくなります

人の世は短いのに嫌な時間、退屈な時間があります

そんな時はマスクなしで好みのサイトやDVDを見ます



「三丁目の夕日」奥村岸雄 絵

彼岸花の季節

今年もいつの間にか野道の両側に彼岸花が咲いています

国王が通る道には国旗が掲げられ

高貴な方が歩く床には赤い絨毯が布かれるように

この道をまもなく偉い方がお通りになるのです

こんな田舎道を高貴な方が訪れるとは

新聞にもTVにも見当たりません

きつと人間ではない偉い方です

秋が近づくと毎年田舎道を視察に訪れる方を

野の生き物たちは待っているのです

「アカマンマは実をつけましたか」

「台風が通り過ぎましたがお米は豊作でしたか」



「イナゴはもういませんか」

「ツバメは無事帰りましたか」

「さへ 蝸のソプラノは今年も素敵でしたか」

その方は野の花や虫たちに一人一人声をかけるのです
ある日急に色褪せた彼岸花の道に立ち止まりました

「誰かいますか」

草むらで虫たちがとぎれとぎれに答えました

「昨日その方がここをお通りになったのです」

「子供にも年寄りにも声を掛けてくれたのです」

「今年もなんて鮮やかなんでしょう」

あとは冬が来る前に天上の花園に帰りなさい」※

それで思い残すことはなくなつた彼岸花は一斉に萎れ始めたのです



自分

初め 生き物には自分はいない

野鳥はカーブミラーに映る自分を攻撃する

自分は見つかりと邪魔になる

戦争や自然災害で命の危険が迫る状態では

自分を忘れ本能的に身近な者や身を守る

人に限り自らの命を絶つという時がある

戦争や自然災害の時と違い

気づいた自分の状況が不快な時である

そんな自分をカーブミラーに見つけ

「何処かへ消えてしまえ」と不名誉な自分を拒絶するのだ

生き甲斐は才能や容姿や資産でもなさそうだ



自説を否定された学者や俳優が自殺して記事になる

自分に何らかの特色が見つからなければ人間を忘れ

蟻や蜂やミジンコの群れに戻ればいい

人は自分であることには時折気づけばいいのではないだろうか

嵐の夜飼い主を見上げている犬のツルゲーネフの短編詩がある

…その時 私は犬と同じ意識の中にいた…

自分が自分で嫌になつてしまつたら誰が自分を救うのだろうか？

生き物がこの世に生を受けたのは楽しむ為で苦しむ為ではない

自分を救えない者が何で他者を救えるだろう

「何 読んでるの？」

開いた本を横切る小さな虫がいた

あえて死を選ばなくもみな貴重な短い命だ

世界には自分と同じ大勢の自分が生きている



見えない 気づかない

見えないもの 神様 仏様 背後霊

幽霊は暗くなると見えるが腰から下がない

首から上が無いのに昼間からそこらを歩いている者がいる

自分です

普段は首から上はメガネを乗せた鼻の先が少し見えるだけ

鏡を見て初めて並の人であると安堵する

ただつまらない顔なので

化粧を凝らす女性と違い

髭をそる時以外見る気がしない

自分以外は人間が顔ごとそっくりみえます

外見も様々ですが



中身は外見以上に様々です

小柄のマザーテレサは1m以上あります

権力名声はあるが尊大な方は三センチです

こういう人になりたいという人がいます

こんな人には成りたくないという人がいます

他人のことは分かるけど自分のことは分からないのです

自分の口臭や体臭は自分では気づきにくいのです

一口飲んでアルコール度を計ったら0.15mg以下でした

誰も気づかない筈と思ったら

「飲んだでしょう」とすぐバレました

私 ハヅカシながら

長い間尻尾を消し忘れたタヌキでした

次の満月の晩は尻尾を振りながら証城寺の庭で踊ろう



さきたま古墳

もう一人の自分

どこからともなく現れ囁く妖怪がいます

「好意がアダとなり侮りを受けた」と後悔してるナ

「もう元に帰らないな」と落胆してるナ

「無力だな」と改めて自分の無力に失望してるナ

日本民話によれば妖怪サトリは飛騨の奥山や山形県新庄市に棲んでいました

サトリは神通力の一つ「他心通」を会得し人の心を見透すのです

「お前を調べたが並み以上のものは無い」

「おまけに並み以下のものがいくつもある」

「トホホ。それじゃ、まるで取柄がないじゃないですか」

「ある。並みの幸せが貴重にみえ、壇上で恥を晒すことはない」

サトリが現れる時は不快な時です



それから自分にはあまり関心がなくなり

自分以外の自分に関心を持つことにしました

人は何故生きるのか

百年以上前秀才と言われた少年は滝に飛び込みました

「何故」が無くなる時があります

人の心に感動した時です

よいドラマを見ているときは自分を忘れます

日々の暮らしの中で些細なことで喜んでくれる人がいます

おや と立ち止まることがあります

ものかげで小さな花が咲いています

今夜は満月です



松虫姫鈴虫姫物語

子供の名は親の願いです

男子なら雄々しく

女子なら愛らしく幸せにと命名するでしょう

その昔松虫と鈴虫と名付けられた女官がいました

宮廷でのペットネームかもしれません

誰もが虫のように儚ない一生とは思ひもしなかったでしょう

（後鳥羽上皇の時代（一三世紀はじめ）清水寺で法然の法話を聞き松虫姫一九歳と鈴虫姫一七歳の姉妹は出家し尼僧になりました。

上皇は激怒し法然を流罪とし二人の姫の髪を切った安樂房と住蓮房は翌年検非違使によって河原で処刑されました。その後松虫姫は三六歳。鈴虫姫は四五歳、寿命二ヶ月ほどの松虫や鈴虫よりも長く生き尼僧として生涯を終えています）



童女

様々な仏様がいます

菩薩以上の仏は六神通が使える筈です

風の神 火の神 雷の神 仁王や夜叉はみな超能力者です

仏の最上位は如来です

やればどんな奇跡も起こせた筈ですが

阿弥陀如来は何もしませんでした

ただ悲しみと慈しみに満ちた目で

自分の名を呼ぶものを見ているのです

昔から今も

法然も安樂坊も住蓮坊も松虫姫も鈴虫姫も ※

そんな阿弥陀様に帰依したのです



母の顔 円空

世界一小さな表賞状

この世には様々な表彰があります

表彰される方は何れもそれなりの方です

そして表彰する人も人の上に立つ方です

私は人の上どころか横から下にいますが

私が作った表彰状があります

「私は貴方に敬意を表します」

表彰状は百均で購入した額縁に入っています

一昨年表彰したのは人通りの少ない散歩道に

十年以上朝顔を咲かせている方でした

副賞に茶菓子一袋差上げました

今回私が表彰したいのは



林 義雄

表象状

〇〇 恵 様

貴方は黒浜保育園前の通路のフェンス際に様々な朝顔の苗を植え、育てそこを通る人々の目を楽しませてくれています。欲しい方はどうぞとミトマト迄植えてあります。草むしり、散水等既に何年も続けておられます。まるでお金にならず、ロータリークラブもライオンズも蓮田市長も知らないことですが、特別な事だと知っているのは私と同行の犬、及び数人の方です。
ここに粗品を添えて感謝の言葉を贈ります。

平成二十九年五月二十二日
誰かのためや自然のために無報酬の事をしてる方を表彰する会

会長 〇〇 善 〇

山形県のローカル線「関根」駅前旅館山水荘です

無人化となりそれから三十六年

この駅で停車した列車は見ていません

縁あつて四十一年以上毎年宿泊しました

近くに水窪ダムがあつて普門院があり ※1

かつては地元の集会場として賑いがありました

老朽化する設備と寂れていく町の様相に手を拱いています

山水荘の名の由来は昔のTVドラマに因んだとのことです ※2

老いた母親の跡を継いだのは末娘夫妻ですが来年は未定とのこと

子供を育てました

心のこもつたおもてなしをしてくれました

佐藤ご夫妻半世紀ご苦労さまでした



林 義雄

感謝状

佐藤ご夫妻殿

貴方は関根駅前の山水荘を
母から受け継ぎお二人で維持
して参りました。建物が
古いのでその分料理でとの
気遣いが分かります。年に
一度ご当地で縁のあつた方
達との酒宴が楽しみでし
た。有り難うございました。
〇〇 善〇

独り言葉

ある日 あるところに…

昔話におじいさんとおばあさんが出てくるのは何故だろう

兎やオオカミがでてくるのは何故だろう

三葉虫の化石を見たとき懐かしい気がした 海にいたのだナ

江戸時代私と逢ったという方がいました 百姓だったようです

二千年前ガリラヤ湖でイエスに群がる群衆の中にもいたという

今も時折イエスの言葉に惹かれるのはそのせいかもしれません

「今は 昔 …」と語り部が話し始めると

一座の者は瞬間移動します



場所間違えたかな 葉生

蠟燭の火影で「サトリ」が覗いています

観客が一人しかない舞台上で踊っている人がいる
誰もいない舞台上で叫んでいる人がいる

お地蔵さまが黙っている理由

その先を考えると 返答できないのです

波長が合うと様々な人間や物の怪^けが見え聞こえます

空即是空 SWを切ると全て消えます

空即是色 物語はチャンネルで選べます

美しいこと楽しいことは予告編です

私のチャンネルは不快なCMが長いです



岡本 肇

ユリの木讃歌

冬を迎えユリの木の下枝を伐りました

急に空間が広がり青空が覗きました

ユリの木は初夏にはチューリップ状の花を咲かせます

学名は「Liriodendron tulip (ナントカチューリップ) ifera」です

その花は年毎に数を増やし色褪せることはありません

人の世の終わりを栄誉で飾る方は希で

やがて老醜とか加齢臭が気になります

私が切り落とした小枝や落葉は地表を飾り

芳香が一面に漂っているので感嘆しました

今夜からは枝の向こうに

星空が広がり折々の月が覗くでしょう



ユリの木は三十数年前は細い苗木でした

いつのまにか周囲一米ほどの大木になっていました

三十余年の間汚れた炭酸ガスをクリーンな酸素に変え
数えきれない虫や鳥を友としてきました

ユリの木の花は蜂が好み花の蜜は高級品です

ユリの木の原産は北米です

大木になるのでインディアンはこの木でカヌーをつくりました

気がつくと私は八十年以上この世に生きて樹木なら巨木です

その歳月私は何をしたのだろう

私は思わず恥じ入りました

身近に私をはるかに越え そうなりたい方がいます

でもそうはなりたくない方も多いです

もし生まれ代りがあるならユリの木でもいいと思います



自薦俳句 ※

初雪や 初恋の人今も好き

あの人も あの人もこの人も居ず桜咲く

初蝶の 不意に光となりにつけり

泣くときも双子はいつしょ さくらんぼ

蠅叩き 夫より奪い 蠅を追う

木下闇 誰もゐないが 誰かゐる

噴水の止まる一瞬 虹残る

合歡の花 夢の中でも泣いていた

笹百合や 心綺麗な人に 逢う

泰山木 家もろともに消えてゐし

里神楽 俺のとうちゃん あの大蛇

盛岡市

佐藤春元

横浜市

遠矢時子

四日市市

村山夕ツエ

大阪市

塚本宣夫

鹿児島市

鶴屋洋子

大分市

後藤利夫

戸田市

昼間道草

名古屋市

渡辺淳子

愛知県

古屋晴代

東京都

佐久間房江

横浜市

永井良和

星月夜 選ばれしごと 吾病めり

今朝の秋 誰かひょうこり 来る予感

遠くから 誰か見てゐる今朝の秋

烏瓜 最晩年の恋の色

秋うらら 今日も何も無い日なり

この国を褒めたことなし。パナマ帽

コスモスの倒れてもなお倒れても

門限のあるらしき猫 秋の暮れ

玉野市 北村和枝

奈良市 浜崎整爾

青梅市 青柳富也

横浜市 小林千秋

大津市 竹村哲男

栃木県 あらゐひとし

桐生市 杉戸 乃ぼる

東京都 大網 健治



3. 11で転倒

追補

宝物

※ 17頁 ★ 妖精の国で貰った宝石はこの世界に持ち帰ってみると普通の小石になっ

た。ワンス・アポン・ア・タイム。私達高齢者達はアイルランド民謡の「春の日の花と輝く」を教わりました。美しい曲で文語まじりの綺麗な言葉が並べられ流石堀敬三先生の翻訳と信じていました。その後、簡単な英文が分かるようになり啞然としました。同じ文部省唱

歌に「冬の星座」(Molly Dollie いとしのモリー)ありますが同じことがいえます。原文は遙かに美しく格調高い詩なのです。タイトルの「春の日の花と輝く」の原題は「私を信じて」 Believe me です。その中のフレーズです恋という名の愛は「フェアリー贈り物」のように消えてしまうものだけど(Like

fairy gifts fading away.) 貴方に対する私の愛は年老いた今も変わることがないという老夫婦の感動的な詩なのです。堀内敬三先生の翻訳からは素敵な「妖精の贈り物」は何処にも感じられない。

★宮澤賢治の「ドングリと山猫」の物語りではドングリ達の争事を見事に収めた一郎はお礼に一升の金のドングりを山猫から貰います。帰り道金色のどんぐりは次第に色あせて普通のどんぐりになっています。



神様のお住まい

※19頁

『汚れなき悪戯』（けがれなきいたずら）は1955年製作のスペイン映画。モノクロ作品。英語の題名としてMiracle of Marcelinoが使われる。

十四世紀イタリア中部ウンブリア地方で起こったと言われる民間伝承を元にしたホセ・マリア・サンチェス・シルバ（Jos Mara Sanchez Silva）による1952年発表の小説を原作とする映画。

「夢見よマルセリーノ 静かな寝顔…」で始まる「マルセリーノの唄」（飯塚広訳詞）は、当時日本でも大ヒットした。

幸せ数え歌

※22頁 「輪廻転生」は一般的には仏教思想でキリスト教には馴染まない考え方ですが、初期のキリスト教にはあったようです。六世紀の宗教会議（AC553年コンスタンティノポリスで開かれた第2回宗教会議でそういう考え方は異端であると考えられ現在に至っていると言う）

今も中国の奥地には前世の記憶を持っている人が大勢いるという情報で現地取



材した方がいます。森田健という方で2000年から7年間現地調査をして2008年ドキュメンタリー「生まれ変わりの村」を河出書房新社より出版して、その後映画化されています。

分からないことばかり

※25頁 ヨハネ福音書 15―12―15

お経

※30頁 曹洞宗(禅宗)修証義。その他の経文はほぼ漢文の音読みで日本語として理解不能。

真夏の夜の夢

※26頁 一五世紀百年戦争。神のお告げにより参戦し敗色濃厚なフランス軍を勝利を導いたがその後異端として火刑に処された。500年後の1920年ローマ教皇によりフランスの守護聖人に加えられた。

コンタクト

※38頁 米 カール・セーガン 代表作 1997 映画化

アレシボ天文台は実在の世界最大の電波望遠鏡である。直径三〇五米でプエルトリコにあ



る。世界初のセチ計画（地球外知的生命探査）を提案し実施したフランク・ドレクは1964～1992年までこの天文台の所長だった。1930年生まれのだレイクは現在九十歳。残年ながら地球以外の知的生命体からのこの電波望遠鏡に対する応答はないという。（非公式にはあつたという説もある）

一秒で30万kmもある電波は地球レベルでは申し分ない通信手段だが、光でも100億年以上かかる宇宙空間の通信手段としてはカタツムリに託したお手紙ではないのだろうか。

おまじない

※42頁 映画「三丁目の夕日」 貧乏文士 茶川竜之介は恋するヒロミに指輪を贈ろうとしたが果たせずスチユアだけする。後編でまさかの展開で実物を彼女に贈ることができる。

※2 全文262字の般若心経は有名過ぎるお経で多くの解説書があります。要旨は色即是空。であるが空即是色でもある。ところで空は無ではない。万物の母体が空である。面白いではないか。人は世界に対して

めて解釈するだけの100%受け身の希望のない存在に見える。が、喜べ喜べ神々のおまじないを教えよう。これは言葉そのものがパワーを持つのだ。そのおまじないとはぎゃーてい羯諦ぎゃーてい波羅羯諦はーらーぎゃーてい波羅僧羯



森番さん 林義雄

諦はらそうぎゃーてい菩提薩婆ばーじーそわか 般若心経はんにやしんぎょう。重要なのは最後のサンスクリット語の赤字の言葉なのだ。

彼岸花の季節

※ 47頁 彼岸花 別名 曼珠沙華 サンスクリット語 天上界に咲く花

松虫姫鈴虫姫物語り

※ 55頁

令和二年11月2日 読売歌壇

阿弥陀仏に帰依せし二人の女官の名すずむし、まつむし思い出ずる夜 丸亀市 森田かおり

四人の選者の一人が佳作として選んだものです。私が個人的拘りで当日四十編の作品で一番めの入選作として連想したものです。

極楽に生まれむことの うれしさに 身をば仏にまかすなりけり 住蓮房

今はただ 言う言の葉もなかりけり 南無阿弥陀仏のみ名のほかには 安樂房

松虫鈴虫事件で処刑された二人の僧侶の辞世の(詠)うたです。

世界一小さな表彰状



蔵勝見里

※ 57頁

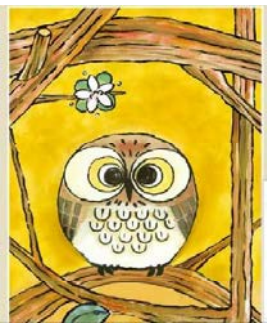
※1 普門院は上杉鷹山公と恩師細井平洲との感激の出逢いの場所。「一字一涙」の碑がある。

※2 1970・1・8～1971・4・1（半世紀まえ）TVドラマ「細うで繁盛記」花登筐作が大ヒットした。その舞台となった旅館の名が山水館である。

自薦俳句

※60頁 毎週月曜日は何か感動させてくれるものは無いかと新聞の歌壇・俳壇（読売）に眼を通します。それぞれ四人のその道の著名な選者が一〇編ずつ選びます。最初の三編が入選作でコメントが付きあと七編が佳作のようです。私はこの世界の部外者の上に個人的偏見があります。それはオーソドックスな俳人から冷笑、苦笑されるものです。私はこの世界の通人でないと分からない業界用語や、かまえがスキくないです。

部外者の日常感覚で「これいいな、誰かに知らせよう」と読売新聞から（最後の一篇は出所別）スクラップしたものです。一年前は歌壇でした。今回は俳壇から選びました。



日菜子



200403 山ノ木山自然公園

Tan



忠晴 京井

私家版 詩画集 「木の葉の夢」

発行日 令和二年十一月三十日（望月）

製作 手作り出版社

〒349-0101 蓮田市黒浜3111の2

書いた人 やまのうえの 山上 むらひと 村人 戸籍名 大畑 善夫

E-mail ohata@ohdk.co.jp <http://www.ohdk.co.jp>